

発行 中山かんのん

恩 林 寺

中山中学下、電話三四一―一二四五

*いい話を聞きました

先日、いつもお経にお邪魔するおばちゃんから、いい話を聞きました。このおばちゃんをかりにハナさんといたしましょう。ハナさんは高山の生まれ、高山の育ち、旦那さんは石川県金沢のお生まれです。とてお信心深くて話し好きで、近所のかたの人氣者です。しかし最近足が不自由で、あまり外には出かけません。お経が終わりますといつものようにお茶と、お菓子が出ておしゃべりが始まります。「和尚さんはいつも元気そうで、けなるいなあ。どうしてそんなに元気でいられるの?」「そんなことないさあ。この頃はどこか出かけるにも、免許証どこヤツタかな?くるまのかぎは?財布持ったかな?。そうや、今朝は葉飲んだんやったかなあ。なんて、なかなか、出かけるにでかけられんようになってしまったな。それにほっぺたに、でっかいシミができてしまったな。顔は皺(しわ)だらけ、まあ、年はとりとうないもんやな。」「ギヤツはっは。まあ和尚さんでもそんなこと気になるの。ま聞いてくれ。これはこないだ聞いてきたばかりりの話やけどな。和尚さん、極楽にはカリヨウ、ビンガとかいう極楽鳥が飛び回っておるそうやが、和尚さんのかおのシミは、極楽鳥がうんちをしたのが、飛び散って、顔にかかっただけやって。

おてら

中に行こう。

おしょうさんと

ともたち

友達になろう。

和尚さんは坊さんやで極楽鳥の飛び回る、極楽の近くまで来たということや。大丈夫、もうすぐ極楽やで、心配せんでも。

それにな、皺のできるのは今まで世の中、いろいろ体験してきたンやで、堂々としたりやええんや。横皺(よこじわ)はうれしいこと、たのしいこと。縦皺(たてじわ)は怒ったとき、はんちくたいこの証(あかし)やそうな。私もな、この話を聞くまではいちいち気にしとったけど、まあ、これからは縦皺が寄らんように、頑張らないかんとおもっとるんやよ。」「そうかな。今日はいい話を聞かせてもらったなあ。おばちゃんに、お布施つつまないかな」「ぎやはは。そら、はんたいこやもんなあ。」「(高山べんの話、ご理解いただけましたかな?)

*恩林寺のお施餓鬼

六月二十八日(日)昨年に続き第二回目のお施餓鬼が勤まりました。

当日は東山、宗猷寺住職和尚、岐阜芥見、真聖寺閑栖和尚。同、住職和尚様はじめ全部で十名による黄檗式の法要で盛会でした。翌日の中日新聞、高山区版に以下のようなニュースが掲載されましたので、紹介いたします。



恩林寺 お施餓鬼法要

下岡本町の恩林寺では昨年六月に数十年ぶりに復活したお施餓鬼法要を今年も開催する事になり、六月二十八日に開催されました。

お施餓鬼法要は約一時間、中国風で鳴り物が多く独特なお経でした。その後、岐阜茶見真聖寺の村瀬正光住職より法話がございました。



***例年八月十九日夜**に行われます東山連合寺院、および本町会主催の**川施餓鬼法要**を本年も、**柳橋**で予定されております。これはお盆の精霊送りを兼ね、とうろう流しが予定されております。ご先祖のご供養を希望されます方は、申込み用紙を同封致しましたので、ご記名され、お寺まで申し出ください。なお当日でも馬頭様、中橋、鍛冶橋、北陸銀行前で受け付けをいたしております。今年の導師は恩林寺和尚の予定です。

*** 施す(ほごす)**ということについて

六月二十八日、お寺のお施餓鬼法要の後に岐阜市芥見、真聖寺住職、村瀬正光住職による法話がありました。その概略についてまとめました。

「戦後七十年といいますが、人の寿命というものはずい

ぶんと長くなったものです。日本も戦中は、あるいは戦国時代、平均寿命は二十歳というような時代もあったのです。先陣を切らない殿様は、人間五十年などといったのですが。さて、私の檀家さんで母子家庭で育った娘さんがめでたく結婚され、いよいよ臨月になりました。昔は、お産というのは一大事で、お母さんが命を落とす。

子供さんが死産だった、というようなことがありました。が、今はこうしたことはほとんどありません。しかし、病院でお産をするということでしたがいわゆる医療ミスでお母さんのほうがなくなってしまうました。うまれたお子さんは女の子でした。妊婦さんの旦那さんはもちろんおられるのですが、私は伯父さんの家に引き取られ、また子供さんもおじさんの家で育てるということになりました。旦那寺である私は七日ごとにお参りに行くのですが、どうも暗い雰囲気で、つらく感じておりました。ところがある日、お宅に伺ってみると、どうもいつもと違うのです。お経が済みますと、おじさんが「和尚さん、今日はちょっとお話があるのですが。」と、言うのです。

「和尚さん、私もし間違っていたら、どうか指摘してほしいのですが。と前置きしてこんなことを話してくれました。」「お医者さんのミスとはいえ、こんなかわいの子供を親なしにして、なんということか。と、弁護士に相談してお医者さんを告訴しよう準備はすべて整えました。しかし、なんの罪もない子供は屈託ない顔でニコニコしてくれます。私は、今、何をしようとしているのか。そこで私は、裁判で争うなどということは、すべてのことにしよう。この子のために残りの人生をかける。わずかな資産もこの子のために使おう。と、心に決めたのです。」「話せば長くなりますが無財の七施という言葉があります。誰にでもできる施し、とても言いましようか、にこにこ類笑む、優しい笑顔というのも施しですね。(これを仏教では和顔施といいます。）」おじさんは姪っ子さんから施しを受けたということですね。「今日は恩林寺さんからは法話のテーマをいただいていたのですが、勝手に変更しましてわたしの檀家さんのお話をさせていただきます。ご消聴ありがとうございます。」